



2025年8月26日

各位

会社名 株式会社デ・ウェスタン・セラピューティクス研究所
代表者名 代表取締役社長 日高 有一
(コード番号:4576)
問合せ先 取締役 松原 さや子
TEL 052-218-8785

2025年12月期 第2四半期決算説明会 質疑応答について

当社は、2025年8月22日に2025年12月期第2四半期決算説明会を開催いたしました。質疑応答の要旨を以下のとおりお知らせいたします。

決算内容の詳細につきましては、2025年8月14日公表の決算短信及び決算説明資料をご覧ください。

No.	質問	回答
1	H-1337 は、フェーズ3試験の準備中とありますが、今回は、導出前提でフェーズ3は導出先に実施してもらうような認識でいました。現在、ライセンスアウトと自社開発のどちらに気持ちが傾いているのか、方針変更の背景等があれば教えてください。また、導出先の引き合い状況についても教えてください。	以前より個人的な気持ちとしては、自社でフェーズ3をやりたいと思っています。一方、企業体力、資金負担を考えるとライセンスアウトの方がよいと思います。 結論としては、開発は遅らせたくないの、導出活動をしつつ、条件面の折り合いもあるので、自社で開発するような流れでフェーズ3の準備を進めているのが現在の状況です。 引き合いについては、複数の会社と条件交渉を進めています。個人的な見解になりますが、緑内障は成熟市場なので、自社でフェーズ3までやった方がより良い条件が得られるのだろうという感覚は現時点で受けています。
2	DW-5LBT は、複数回 CRL を受領していますが、今回は承認取得できそうでしょうか。	CRL の内容については、過去のものに比べると今回は大丈夫だろうと思っています。
3	H-1129 のリポジショニングについて、過去の試験（フェーズ3）では副作用で中止となりましたが、新しい疾患は副作用の懸念がなくなったのか、もしくはメカニズムの観点から副作用はないと判断できるのかどのように考えればよいでしょうか。	フェーズ3での副作用は、長期投与において充血・眼瞼炎等が発生し中止となりました。フェーズ3の用量は高濃度でしたが、フェーズ1, 2ではより低い用量の試験も行っており、用量を下げるにより副作用のリスクを軽減したいと考えています。メカニズムの観点で副作用がないということはないので、今後の試験でそれを証明していく必要があると考えています。

4	アーリーフェーズのものが他にもあるように思いますが、その中から H-1129 を進めようとした背景は何でしょうか。	ここ 2～3 年でアーリーフェーズなものの共同研究等が増えてきておりますが、株価等の状況を踏まえると、開発出口が見えやすいものに取り組む必要があると考えており、後期段階にあるものをパイプラインに加えるという判断をしました。
---	---	---

以 上